

第1回屋久島町観光基本計画策定委員会担当者会 議事録

日時	令和6年11月27日（水）14:00～15:45
場所	屋久島町役場本庁 2階会議室
参加者	<p>屋久島観光協会 総務委員長 満園 茂</p> <p>屋久島観光協会 物販部会長 荒木 政孝</p> <p>屋久島町商工会 事務局長 橘 誠也</p> <p>屋久島商工会 青年部長 鮫島 健</p> <p>種子屋久農業協同組合 屋久島支所組合員課次長 清岡 哲也</p> <p>屋久島漁業協同組合 参事 鮫島 洋一</p> <p>公益財団法人 屋久島環境文化財団 事業課長 濱崎 寿仁</p> <p>屋久島町 産業振興課 統括係長 川崎 勝也</p> <p>屋久島町 産業振興課 統括係長（農政） 日高 成</p>
内容	<p>1. 開会</p> <p>事務局：</p> <p>ただいまより第2次屋久島町観光基本計画策定委員会担当者会（第1回）会議を開催します。</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>事務局：</p> <p>会次第2委嘱状交付です。委員の皆さまへ委嘱状を交付します。</p> <p>【 委員を代表して「満園委員」に委嘱状交付 】</p> <p>3. 町長あいさつ</p> <p>事務局：</p> <p>続きまして、会次第3町長あいさつです。町長が公務出張中のため、観光まちづくり課長が代わりまして、ごあいさついたします。</p> <p>観光まちづくり課長：</p> <p>第2次屋久島町観光基本計画策定委員会の皆さま、本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。先程、委嘱状をお渡ししましたが、第2次屋久島町観光基本計画の策定にあたりまして、本町の観光事業を始めとした各種産業等の組織団体において、第一線でご尽力されている、屋久島、口永良島の代表の方々に委員をお引き受けいただきましたこと、大変心強く感じるところです。</p> <p>屋久島町は平成28年3月にエコツーリズムによる世界自然遺産屋久島の価値創造と観光立町を基本理念とし、観光基本計画を策定し、これまで各種の観光施策を実施して参りました。</p>

計画策定から9年目を迎える現在、観光産業の状況は世界中に猛威をふるった新型コロナウイルス感染症の影響やさまざまな要因が絡み合い物価高騰など依然として厳しい状況にありますが、昨年末から顕著となっている訪日外国人の増加を受けて、本町でも外国人観光客の増加傾向にあるなど明るい兆しもみられています。観光基本計画は、多様化する観光ニーズを的確に見通した観光振興施策の検討を行い地域の魅力の再認識による持続可能なまちづくりと共に、積極的な地域資源や環境の改善などによる地域全体の改正、向上に繋がることも期待される大変重要な計画です。観光計画振興の推進にあたっては、全国各地で散見されているオーバーツーリズムや、人手不足の問題、災害リスクへの対応など複雑かつ様々な課題があります。本町の多様な魅力を1つでも多く引き出し計画が策定されるよう期待しています。委員の皆さま、よろしくお願いいたします。

#### 4. 委員紹介

##### 事務局：

続きまして、会次第4委員紹介です。資料1をご覧ください。事務局の方で名簿のご氏名を読み上げて紹介させていただきます。

(名簿の読み上げ)

以上、15名の委員構成により、第2次屋久島町観光基本計画策定委員会担当者会として協議をいただくこととなります。本会の事務局は、観光まちづくり課が担っており、また、本計画の策定業務には、ランドブレイン株式会社の支援を受けて各種作業を進めていくことを併せてご報告いたします。

#### 5. 議長指名の報告

##### 事務局：

続きまして、会次第5議長指名の報告です。

資料の2・3ページをご覧ください。委員長及び副委員長の選出にあたりまして、その根拠となる「屋久島町観光基本計画策定委員会設置要綱」について説明いたします。

##### 【 要綱について説明 】

・・・産業振興課農政担当統括係長の日高委員には、議長として会次第6協議及び報告事項における議事進行をお願いいたします。

#### 6. 協議及び報告事項

##### 議長：

皆さま、お疲れ様です。産業振興課の日高と申します。計画策定に向けてよろしくお願いいたします。私は、議長をやるのは初めてで不慣れではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

たします。

それでは、会次第に従い、6 協議及び報告事項です。(1) 計画策定の進め方について、事務局の説明をお願いします。

### (1) 計画策定の進め方について

**事務局：**

屋久島町観光基本計画策定に向けての今後の進め方について説明いたします。

【 今後の進め方について説明 】

・・・協議の進捗状況等により、前倒しや後ろ倒しがあること、また、開催回数も増えたりすることがありますことを御承知おきください。以上で説明を終わります。

**議長：**

ただいまの事務局からの説明について、ご不明な点などありましたら、ご発言をお願いします。

**委員：**

策定委員会と担当者会の位置付けについて、策定委員会が上位で、その下に担当者会があるということ、具体的なところを担当者会が練って、策定委員会で決定をするという認識であっていますか。例えば、策定委員会で担当者会の案が承認されなかった場合、差し戻して、再検討いただくことは可能でしょうか。

**事務局：**

より良い計画を作っていくために、見直した上で再協議することはあり得ると思います。

**議長：**

他にご質問等ありませんか。特にご質問等無いようなので、(2) 各種調査概要等について、事務局の説明をお願いします。

### (2) 各種調査概要等について

**事務局：**

説明は、資料 5 から 7 は策定支援事業者が説明し、資料 8 は、事務局である観光まちづくり課が行います。

**策定支援事業者：**

まず、①観光統計等基礎データの収集・分析については、国や県のトレンド・・・

【 資料 5 ～ 7 について説明 】

・・・世界自然遺産に対する認識やルールなどをどのくらい理解しているのかについてアンケート調査を実施する予定です。以上になります。

**事務局：**

本資料は観光まちづくり課が旅行者等に対して実施しているアンケートになります。

**【 資料 8 について説明 】**

・・・次回の担当者会におきましても、資料として提出させていただく予定としております。  
以上で説明を終わります。

**議長：**

各種調査の概要等につきまして、各種資料のご説明をいただきました。皆さまから何かご不明な点などありましたら、ご発言をお願いします。

**委員：**

9 ページの⑤観光の質向上に向けた意識調査・分析の WEB アンケートについて、WEB はどこに出す予定なのでしょうか。

**事務局：**

専門の業者をお願いし、屋久島町に来た方に WEB アンケートを回答していただく予定です。

**策定支援事業者：**

出すというのが業者という意味であれば、我々受託業者に出していただくことになりませんが、厳密に言うと、我々から更に WEB 調査会社に出します。その会社が持っている「パネル」と呼ばれるモニターの方々に一斉に配布し、スクリーニング調査として屋久島への来訪経験を取った上で、今回の調査対象として当てはまる人のみを必要サンプル数に応じて抽出し、回答いただくという形を想定しています。

**委員：**

アンケートを出す段階では、地域等、対象を絞らないということでしょうか。

**策定支援事業者：**

ご認識の通りです。詳細な設定については、これから協議をしますが、予算に大きく影響するため、まずはインバウンドも対象とするかどうかについて協議したいと思っています。その上で、国外でどこの国に何票ずつとか、国内で各エリアから均等になるように割付けるところまでは想定してはいないです。有り得るとすれば国内外という割付けで、1：1 なのか、1：2 なのかという設定は今のところ想定はしています。

**議長：**

他の委員の皆さまから何かございますか。

**委員：**

対象は全国ということだとは思いますが、もし行うのであれば都道府県ごとに WEB アンケートの結果を出していただき、傾向が知りたいです。

**策定支援事業者：**

承知しました。現時点の想定としては、純粋に来たことがある方を抽出することとしているので、当然来たことがある人全てが対象にはなりますが、おっしゃるように各都道府県で何票ずつ確実に担保できるように集めるというやり方もできますので、事務局と調整の上設

計したいと思います。ただ、行うとしても47都道府県全てではなく、北海道、東北等、エリアで割付けるという考えであります。

**委員：**

定数で割付けなくてもいいのですが、結果的に報告書では都道府県ごとに知りたいです。

**策定支援事業者：**

承知しました。

**委員：**

屋久島に来た人だけを抽出するのですね。

**策定支援事業者：**

ご認識の通りです。

**委員：**

屋久島に来たことがない人については分からないのでしょうか。アンケートの中身はわかりませんが、来たことがない人への設問はないのでしょうか。

**策定支援事業者：**

おっしゃる通り、本調査では、今来ている人の観光客像を高めるために、今までであれば、年代や性別、職業くらいのレベルでしか属性を調査していなかったものを、どういった趣味を持っているのか、どのような生活スタイルの人なのかなど、もう少し人となりを分解したいと考えています。今回の提案としては、今来ている人達がどういう人達なのかをより深く掘り下げるための調査なので、調査対象としては、「来たことがある人」としています。認知度調査であれば、「来たことがない人」に対してとることもありますが、その辺りは、調査で何を目的としているかでやり方が変わります。今回は「来たことがない人」は対象外と考えています。

**事務局：**

来たことがない方については、島外の各種イベントに参加した際に広くアンケートをとっており、そこには来たことがない方も入っています。そういったアンケートを、現在とっている中で、来たことがない人のイメージ等はそこでとれるかと思えます。

**委員：**

来てない人の考え方を聞きたいです。アンケートは、何百人も何人も抽出するのですよね。その質問の中に来ていない人ばかりでなく、来ていない人の回答も入れるようにすれば分かっていないのでしょうか。無作為に抽出した「屋久島に来た人に答えてもらうため」のアンケートなのであれば、来てない人もいる訳ですよね。回収率は分かりませんが、来てない人のアンケートも取っていただきたいです。その来てない人の意見も大事なのではないかと思います。来ていない人については、お客様と2~3時間話しますので、大体のことはわかります。自然に惹かれてくる人が、来た人の8割から9割です。宿泊日数が長い人は、里の観光等もしているようです。

**事務局：**

来てない人にどういったことを聞きたいとお考えでしょうか。

**委員：**

決まったことばかりしても意味がないです。来てない人が屋久島に対してどういった考え方を持っているかを知ることによって計画が変わってくると思います。来たことがある人だけに出すのではなく、不特定多数に出して来たことがある人に回答してもらえば、来てない人にもそれほど細かくなくても良いので、どう考えているかくらいは分かる内容で回収してほしいです。

**策定支援事業者：**

繰り返しになりますが、今回の趣旨で調査を実施する場合はこのような設計になります。おっしゃるような趣旨の調査を行うのであれば、また別途違う機会としてやらなければいけないので、その辺りはご意見として承り、事務局と調整したいと思います。今ご意見としていただいた内容を本調査に組み込むという形は難しいかと思っておりますので、今ご意見いただいたようなことが追加でできるのかどうかというところは協議させていただきたいと思っております。

**委員：**

例えば、観光基本計画の中でプロモーションの話を盛り込むのであれば、屋久島に来たことがない人たちのことを、しっかり調べておかないと全く意味がないプロモーションになってしまうと思います。

町で行っているイベント時のアンケートは、恐らく少なくとも屋久島に興味がある方達なので、あとは背中を押すだけで来ると思います。その前段階の人達で、今まで全く屋久島にかすりもしなかった人達に対して、屋久島のことを知っているかとか、知っているのであれば行きたいと思っているかというところは WEB アンケートならではの調査ではないかと思っております。それによって、プロモーションやマーケティングを計画していけるのではないかなと思うのですがどうでしょうか。

**事務局：**

ご意見としていただき、事業者と話し合いたいと思っております。

**委員：**

来ている人には、これまで町のアンケートも含めいろいろと行ってきていると思うので、来てない人の意見も入れて欲しいです。

**事務局：**

来ていない人に対してとる必要がないと言っているわけではなく、今回の調査趣旨では来ている人に対して聞く必要があると考えています。もし来たことがない人にもとる必要があるのであれば、別途どういったアンケートを取ればいいのかを考える必要があると思います。質の向上という意味では、初めての人は対象ではないということだと思っております。

**委員：**

そのように言われれば分かりますが、それ以外はアンケートを取らないということになっている訳ですよ。

**事務局：**

それについては費用の関係もあります。

**委員：**

例えば、第1次計画では観光客数の目標値を35万に設定しています。この目標値に対して、来てない人を想定する必要があると思います。2~3回来ている人達というのは、どういう感じでリピートしてきているのか大体は分かります。来たことがある人は、今まで役場が実施したアンケート等、データが残っているはずで、これまで何度も調査したことがあると思います。

**委員：**

結局は、項目を作るかどうかで、その項目をいれるとWEBアンケートの金額が上がるとか、予算の話ですよ。

**策定支援事業者：**

厳密に言うと、来ていない人への設問項目を入れると高くなるというよりは、先程からの繰り返しになってしまっていますが、今回の調査に今おっしゃっていたような設問を追加するという形が、そもそもそれぞれの調査趣旨の違いから成り立ちません。おっしゃるような調査をするのであれば、これに組み入れるのではなく、また別の調査をすることになるので、そういう意味では、確かに別途費用が発生するため、この場ですぐにはご回答ができないというところです。

ただ、おっしゃるように、既存の調査によりますと、約8割が初めての方で、逆にリピーターは2割程度となっています。まず、初めて来る方を捕まえないというお気持ちは確かによく理解できますし、重要なのではないかと思いますので、全く手立てをしないという訳ではないのですが、予算も制限がある中での調査になるので、全部が全部、どこまでご対応できるかどうかというのは、なかなか難しい部分もあります。

**委員：**

リピーターに対する調査ではなく、新しい人に回答してもらいたいということです。予算の関係で出来ないということですが、来たことがない人へのアンケートの方が、観光業としては大事だと思います。

**策定支援事業者：**

少し議論を飛躍させると、今後観光基本計画を作っていく上で、国の議論等でも量か質かという話がよく出ます。例えば同じ額面を稼ぐにしても、単価の高い人を小人数で済ませるのか、単価が低い人を沢山呼ぶのかというところの戦略が観光地によって色々出て来ると思います。今の話ですと新しい人を掴みたいというところで、人数をまだまだ増やしたいというところが地域のご意向としてあるのかなというように受け取れますが、その辺りはいかがですか。

**委員：**

個人的には人数を増やしたいと思っているわけではありません。ある程度の人数で良いと

思います。第1次計画で人数を設定していますが全然来ていません。そこをどうするかというと、新しい人がどれくらい来たいのかということがあれば、オーバーツーリズムなどはある程度抑えることもできるので必要だと思います。1回来た人はまた来ると思います。リピーターが2割3割と言っていたが、私はそのようなことはないと思っています。

**策定支援事業者：**

そうであれば、何回も来てくれる人や、よりお金を地域に落としてくれる人、あとは、地域のマナー等を理解し、地域にリスペクトを持ってきてくれる人のほうが観光客として好ましい訳ですよ。というところが、具体的にどういう人なのかを掘り下げたいのが、今回ご提案させていただいているところなので、できればこの調査を行わせていただきたいと思っています。

**委員：**

新しい人の情報も必要ですが、ご説明にもあるように、今屋久島に来てくれている人達が、普段どういう生活をして、どういうことをしている人なのか、どういう人達に屋久島が訴求されているのかをまず知りたいということがありますので、この調査は行っていただきたい。今来ていない人も、また別に調査することも検討していかなければならないという話なので、来ていない人もまた別途でしていただきたいということになると思います。

**委員：**

第2次観光計画の基本計画は今から作る訳ですよ。観光やっている人間がやりたいとお願ひしても、それは駄目だと言うのは、直接的に観光に携わっているのは2人ではないですか。もちろん皆さん来ていただいていますけれども。そんなにお金がかかるのでしょうか。たくさんの方でなくてもいいのでできないのでしょうか。

**委員：**

そういう意味で、出来る範囲でもらえたらよいと思います。

**委員：**

今度2月の下旬の次回の担当者会議で、この現在の観光基本計画の達成状況の報告があるのですが、例えば、目標値である35万人は大幅に達成できていませんとなると、新規の人を入れなければいけないという話になってくると思います。そうすると、この新規の人に対するアンケートをやはり実施しないといけないようになってくると思います。この結果を見てから考えませんか。

非常に重要なことだと思うので、それに対しての予算というのは、屋久島町に考えていただければと思います。

**議長：**

アンケートの方法も、計画もされていてという状況だとは思いますが、今のような提案も引き続き検討をしていくのはどうでしょうか。

**事務局：**

そうですね。委員の意見として、来たことがない人へアンケートを取った方がよいという

案が出たので、検討の上、回答させていただきたいです。

**委員：**

アンケートの中身も協議して欲しいです。今から検討するのだから、新しい人の意識を聞くのも大事だと我々は思っています。検討した意見も入れていただかないといけないと思います。見直す事が大事だと思います。検討した結果で色々決めていくことが大事なことだと思います。

**策定支援事業者：**

誤解の無いように補足できればと思いますが、我々も当然、地域の声、そして現場で率先して牽引してくれている観光協会さん等々の声がすごく大変大きいものだと思いますので、なるべく反映したいと思っています。

**委員：**

策定支援事業者さんに言っている訳ではありません。趣旨は理解できます。プラスとして、5のできるならば、6でも良いし、5.5でも良いので検討してもらいたいです。

**事務局：**

今、皆様がお話されたようにこの場で意見を聞きながら、これからの計画策定に向けていきます。協議が必要な部分は、今回のご意見を元に協議していきたいと思っています。

**議長：**

次回の担当者会で、どのような形でアンケートをするか、報告していただけるということでもよろしいでしょうか。

**事務局：**

そうですね。私達も各種のイベントでアンケートを取っており、屋久島に来た人も、来てない人もいますので、来たことのない方のご意見も含めて報告させていただけたらと思います。

**議長：**

アンケートの方法については、次回の担当者会で報告という形でよろしかったでしょうか。

**事務局：**

はい。

**議長：**

わかりました。他にご質問等はございますか。特にご質問等無いようであれば、(3)観光の動向について、事務局の説明をお願いします。

### (3) 観光の動向について

**事務局：**

1 国の動向ですが、国は、観光立国の実現に関する基本的な計画として、・・・

【資料9について説明】

・・・インバウンドへの対応についても施策の展開等を検討していく必要があるかと考えま

す。以上で、観光の動向についての説明を終わります。

**議長：**

ただいまの事務局からの説明について、ご不明な点などありましたら、ご発言をお願いします。

**議長：**

前回の計画は、目標が 35 万人で、32 ページの資料 9 の入込客数は今 26~27 万人です。計画を作っていく中で、事務局や専門家から見て、屋久島の実力係数は大体何万人ぐらいですか。

**事務局：**

前回の計画の入込客で 35 万人というのがありましたが、経済状況も変わってきていて、個人旅行も多くなっています。40 万人を突破した時は、大手旅行会社が 50 人、100 人と連れて来てくれていましたが、大手旅行会社は、地元の業者を安い経費で買いたたくようなことがありました。今は、個人の客層が増えてきているので、人数よりは消費額を重視したいと考えています。入込客が変わらない中、滞在日数を増やして消費額を上げていったほうが、環境的にも負荷がかからず、地元としても地域が潤うと考えます。人数を設定するのは大事かもしれませんが、35 万人を目標にするかどうかというのは、今後の協議の中でどういった消費額や人数を設定するのが今後の検討事項だと思います。

**議長：**

先程策定支援事業者さんから、量より質の良いお客様をという話もありましたし、持続可能な環境を目指していくということも一つの課題となっていくのかなと思っております。そうした時に、どのくらいが、実力ベースなのかなというところを抑えていくのも大切なのかなと思っております。他に皆様から何かご意見ございますか。

**委員：**

今、入込客数について説明していただきましたが、実際に入込客数に対する観光的なお客さんがどれくらいかというのは正確なデータが過去にないです。

屋久島に観光に来た人の 7~8 割が白谷に行くと思っています。縄文杉は大体 6~7 万人、白谷に 10 万人くらいが行きます。そして、縄文杉には体力がなくてはいけない中高年で農業観光のようなツアーで来た人が、ヤクスギランドと白谷に 30%くらいがバスで回って行きます。縄文杉に行くのは、プラス 3 万人くらいなのかなと理解しています。

そうすると、入込客数の観光客の観光としては 50%いないくらいではないかなと個人的には思っています。統計は取っていませんが、それくらいなのではないかと思っています。縄文と白谷を重ねて行っている人は、割引券で把握できます。実際の入込客数のうちの観光はどのくらいなのかというのを、ここ 1 年くらいでも取る必要があると思います。それに付随して人数は設定しないといけないと思っています。

30 何万人とか、40 万人来訪していた時は、高速船代がものすごく安かった時期なのです。安い時期だったから、観光に来たのだと言えます。屋久島は国内で航空券が一番高い場所な

ので、宿泊したお客様達も、屋久島に 1 回来る金額で奄美や沖縄に 3 回行けると言います。そういう状況で、観光客がいきなり増えることは無いと思いますし、観光客数は入込客数の 5 割だと思っています。

第 1 次観光計画のように、目標 35 万人にしようという設定は必要ない気がします。それを設定するならば、来てない人のアンケートをとらないと分からないと思います。町でとっているアンケートに、観光できたかどうかを入れてください。日本か外国かだけでなく。そうすれば、統計的にある程度は把握できるのではないかと思います。ここ 1~2 年で参考までにとっていただけたらなと思います。

**委員：**

今の統計の話でいうと、今回データのところで KDDI のロケーションアナライザーとありますが、これは GPS の位置情報を使った統計の手法なのですが、この前、徳島県の観光連盟のセミナーに観光協会として行ってきました。観光庁でもスマホの GPS 情報を使った人流データを公式なデータとしてまとめて活用しているというのがあります。それによって実際、この人はどこに住んでいて、どこを経由してきているかが推計できます。例えば、屋久島に霧島を経由して飛行機で来ているとか、鹿児島を経由して船で来ているというのが推計できます。所在地によって町民を除外したデータが作れるということを知りました。そういった手法を使った統計の取り方を取り入れていくべきではないかと思いました。

もう 1 つ、入込客数 35 万人で、観光客数は何%かというのは実は重要ではないのではないかと、やっぱり消費額の方が大事なのではないかというのは確かにその通りだと思っています。

プラスで言うと、屋久島町に住んでいる人や関わっているステークホルダーの皆さんが、いかに屋久島に対し、自分の幸せをこの観光で実現しているかというのを 1 つの指標にした方が良くはないでしょうか。観光によって「町民がどのくらい便利になりましたか？」とか「生活が豊かになりましたか？」とか、そういうところが必要なのではないかと思う。

今から滑走路が延びてくると、必然的に機材が大型化し、航空会社としては、より多くの人に乗ってもらいたいと考えます。そうしないと航空路線が維持できないので、そういったことを考えるとある程度入込客数も把握しておかないと、将来的に航空路線を維持できなくなり、結果的に町民の満足度や、ステークホルダーの満足度も下がっていくという結果になるのではないのでしょうか。

**議長：**

入込客数の中で観光客を数えていくというのは、物理的に方法や可能性はあるのでしょうか。

**委員：**

回収率がどうなるのかは分からないが、とった方がいいです。

**事務局：**

宿泊施設のものと同乗しますと、今、回収率が 2 割少し程度であり、それを入れると更に回収率が下がる可能性があります。

**委員：**

やるのであれば、回収率が2割でも良いと思います。2割でも無いよりは良いと思います。統計でとる訳なので、別に1割でも何割でも良いです。2~3日前のテレビで見ましたが、ある地域が、商工会から何から協力して、驚くほどに観光客の状況を把握していました。GPSについて既にやっている地域はやっているのです。

**委員：**

GPSデータを使えば、観光客数も大概は推計できるので、あくまでも正確な数値はわかりませんが、推計はできるのでそれを使えば良いのではないかと思います。

**委員：**

勉強していただいて将来的にやっていただけたらと思います。

**事務局：**

出来る方法を探してみたいと思います。

**策定支援事業者：**

基本的に観光の実態調査をする時に、設計として大体、観光目的なのかビジネスなのか、帰省なのか目的という設問を設けているものです。ビックデータを取るのも良いのですが、経年的に行っている観光に関するアンケートに、1問来訪目的を足すだけで充分かなと思います。ただ、それをするとした場合、令和5年度分はもう出ており、令和6年度分も取ってしまっているのです。来年実施分からになってしまうと思います。

**議長：**

アンケート結果から逆算して、大体観光客はこのくらいかなと推計できるものなのでしょうか。

**策定支援事業者：**

ご認識の通りです。

**議長：**

ありがとうございます。質問は他にございますか。

**委員：**

資料8のアンケートは港や空港で行っているものでしょうか。

**事務局：**

その通りです。

**委員：**

これから実施する観光客のWEBアンケートでは、経済的な設問は設けないのでしょうか。

**策定支援事業者：**

こちら調整中ですが、既存のアンケートで取っている部分もあるので、重複するのであれば割愛させていただくこともできますが、使い道はあります。ただ、弊社から提案しているのが鹿児島県の経済波及効果のツールに入れやすいような費目で取ってみてはいかがかなという提案をしていたので、若干既存の町として行っているアンケートの費目と少し変わるの

で、扱いは協議中です。

**議長：**

観光客については事務局のほうで、検討いただくという形でよろしいですか。結果、出来るか出来ないはあると思います。よろしくお願いします。

**議長：**

他にご質問等ありませんでしょうか。特にご質問等無いようですので、続きまして、(4)その他、事務局の説明をお願いします。

#### (4) その他

**事務局：**

会議資料の送付後に新たな協議事項などがあれば協議しようと考えましたが、特段ありませんでしたので、事務局からはございません。

**議長：**

事務局からは特に無いということです。委員の皆さまから何かご発言はありませんか。

**委員：**

今回の担当者会、策定委員会もそうですが、直接観光に携わっていない方も多く委員になっていらっしゃるの、その方達と観光を語る上で皆さんに一度観光を経験していただいた方がいいのではないかと考えております。それなので、実際に皆さんで、ガイドさんの説明を聞きながら、少し山や川に行ってみるとか、色々な産業の方の話を聞いてみるとか、そういう話を見たり聞いたり体験することで、計画を策定していく上で非常に尊い経験になるのではないかと思います。

**議長：**

事務局いかがでしょうか。

**事務局：**

ここですぐにやりますというのは難しいですが、検討できればと思います。

**委員：**

観光というのは基本楽しいものなので、ここで、会議室で眉間に皺を寄せていても恐らく良い意見はでないと思います。1回観光を感じてから、このデータはあの時のものだね、とか、この意見はあれが元だよねという議論があったほうが良いのではないかと思います。

**議長：**

時期的にはいつが良いとかありますか。

**委員：**

早めがよいとは思いますが。

**委員：**

結構皆さん来たことあるのではないのでしょうか。地元の人あまり行かないのでしょうか。

**委員：**

六次産業化まで考えなければならぬと思います。そうしないと今後は発展しないと思います。観光協会が役場とやっている、たんかんのもぎ取りなど違った目線できると良いと思います。

**委員：**

飲食店行って、漁協の絡みもあると思いますが、屋久島のお魚がいかに関光客に求められているかとか、そういうところも肌感で分かってくるのではないかと思います。観光の裾野の広さみたいなものを感じたり、農業や林業との関わりを感じたりと、色々一度さわりだけでも感じられてはどうでしょうか。

**委員：**

それは逆も必要だと思います。農業の方は、観光を見て、観光業の人は、農家を見るなど、お互いに見る機会があれば良いのかなとは思いますが、凄く大規模な企画だと思います。

**議長：**

検討ください。

**事務局：**

何名かの方に意見を聞きながらご相談させていただきます。

**委員：**

長い会議になると思うので、何か 1.5 回とか 2.5 回のような感じで、合間にそういう場を作っていただけると、非常に以後進行がスムーズに進むのではないかなと思います。

**委員：**

屋久島の食が観光に活かされていないのです。もったいないです。たんかん、ぼんかんもそうです。今、ネットを見ると、ミカン狩りなどがホームページに出ています。2月の閑散期に、たんかん狩りなどを売り込めば、お客様も来るし、お土産も出るし、農家も儲かるし。観光基本計画の中で将来的に入れていくべきではないかなという気はしています。たぶん具体的な計画はないので、来期にでもどうかと思いますが、せつかく農協さんも漁協さんも入って来てくれているので、何かできたらよいと思います。

第1次計画でもそうでしたが、屋久島で今まで色々なアンケートなども見て来たが、一番だめなのは食なのです。まずいという訳ではないです。屋久島らしい食を食べられないのが今、屋久島の観光の中で一番マイナスなのです。最近に移住してきた方が、鹿の料理等いろいろやっていますが、魚を使った料理がなかなかないです。何かやっていく方法はできないかと思っています。

**議長：**

一次産業との関わりという話も出てきたので、一緒に検討させていただきたいと思います。

**委員：**

例えば、観光協会とコラボしているものもあるので、そういったもので日程が合えば行ける日で探すというのも良いと思います。土台は出来ていると思うので。

**委員：**

観光というと、農家の人はそれなりの考え方があるので、私共はこの2月、観光で大々的にやっているのですが、たんかんの申込みが4人入っています。2月も6人申込みがきています。

今回は農家の人に、体験で収穫したものは全部買い取りを条件にしているのです。都会でもお金を払って体験を導入しているものが沢山あります。そういったことも屋久島で今後大事だと思います。本当に屋久島を好きな人に来てもらう。

先程の質の良いお客さんに来てもらうという話も、恐らくリピーターでないとなかなかそういう人は増えないでしょう。リピーターを増やしてくれれば、屋久島の自然も大事にしないといけないというところで、質が良い観光客に来てもらうのが一番良いのではないのでしょうか。

ここ1～2年でホテルが新しく出来ますが、その人達は、今屋久島に観光で来ている人達と若干考え方が違うと思います。自然や歴史を踏まえて観光をする時には、先程言われた質の良いお客様に来ていただかないとならないと思います。そうした時に、リピーターの人達に来ていただけるような基本計画の施策ができれば一番良いなと思います。

**議長：**

他にご意見等ありませんか。特にご意見等無いようでしたら、以上をもちまして、6協議及び報告事項についての協議を終わらせていただきます。会議の進行を事務局にお返しします。

**事務局：**

日高議長ありがとうございました。

## 7. その他

**事務局：**

続きまして、会次第7その他です。事務局から、次回の会議日程について、ご連絡させていただきます。

次回の第2回会議は、令和7年2月6日（木）午後2時からを予定しております。場所は、本庁舎2階会議室を予定しております。委員の皆さまには、ご多用とは存じますがご出席くださいますようお願いいたします。事務局からは以上です。

## 8. 閉会

**事務局：**

以上をもちまして、第2次屋久島町観光基本計画策定委員会担当者会の第1回目の会議を終了させていただきます。本日はありがとうございました。